

支援を待つ人のもとへ 熊本でつなぐ、一人ひとりの暮らし

今、私はこの記事を書いています。ACTジャパンフォーラムが今回支援している、メンバー団体のCWS Japanと熊本YWCAが連携した支援活動に参加するためです。私たちは、高齢者や外国人など、災害時に困難を抱えやすい人々のもとを訪ねています。

支援先の一つは、高齢者が暮らす小さな地域の集まりです。ガスなどのインフラが復旧していない中でも、避難所に移らず、自宅で避難生活を続けています。自宅にいるからといって、日常を取り戻しているわけではありません。水や食料、生活用品を届けるとともに、家屋内の片付けを手伝い、暮らしを立て直すために必要な支援を一緒に確かめています。

もう一つ、見えにくい困難を抱えているのが、外国

人の被災者です。被害の大きかった八代市、宇城市、宇土市などには、特定技能や技能実習の在留資格で、主に農業に従事する外国人が4千人以上います。とりわけ技能実習生の中には、まだ日本語を十分に理解できず、被災後の生活に必要な情報や支援制度を知ることが難しい人が少なくありません。

雇用する側の日本人も被災しているケースが多く、頼りにしたい相手にも余裕がない状況です。言葉の壁に加え、地域とのつながりが限られていれば、困りごとを誰に伝えればよいのかさえ分かりません。支援の窓口を設けるだけでは、こうした人々に十分に届かないのです。

そこで、県が開く外国人向けの相談会や、地域で外国人を支えてきた人々のつてをたどり、被災者との接点を探しています。現在は、ベトナム、カンボジア、インドネシアから来た技能実習生たちとつながり、支

援を始めています。一人ひとりの状況を聞き取り、必要な助けにつなぐ地道な取り組みです。支援を求める声が上がるのを待たず、暮らしの場へ足を運ぶことを心がけています。

ACTジャパンフォーラムが一度に支えられる人数には限りがあります。それでも、通常の支援が届かない人、制度や情報の隙間で取り残されてしまう人に、こちらから手を伸ばすことはできます。物資を届けて終わるのではなく、地域の団体と協力しながら、個々の事情に応じた細やかなケアを中長期にわたって支えることを大切にしています。

このため、ACTジャパンフォーラムでは熊本地震のための緊急募金を開始します。振込口座は下記のとおりです。また、ご送金の際には、お手数ですがQRコードのフォームから必要事項の記入を併せてお願いいたします。

(藤守義光 ふじもり・よしみつ=ACT
ジャパンフォーラム事務局)

